

祖父の姿を見て農業に興味を

神奈川県生まれ、子どもの頃から福島県に住む祖父のコメ作りを見ておもしろいコメを作ってみようという思いがありました。地元農業高校を卒業後「コメ」と言ったら新潟、コメを学ぶなら新潟」と思い、父の実家がある新潟市の新潟県農業大学校へ進学し、コメ作りについて学びました。会社見学をする中で、稲作ができる点や、会長や社長の人柄も決め手となり入社を決めました。

コメ作りが好き

昨年入社し、夏場にはコメと中玉トマト、冬場にはブレイシユ、ホウレン草、シユンギクを担当しています。仕事に慣れるまでは大変でしたが、困ったときは先輩に相談しながら栽培しています。中玉トマトは赤く色づくまで虫に食べられているかどうかが目で見て分かる

法人で働く

生き生きと活躍

おいしい農作物を

作りたい

株式会社ファーム菱瀧(南区菱瀧)

神田 樹里さん

神田さんお薦めのコメの品種

新之助は、暑さに強く粒が大きいのが特徴です。また、粘り気や香りもあるため冷めてもおいしく、お弁当にお薦めです。

▲稲の管理やトマトの加工品の商品パッケージを作っています。

新たに始めた人に聞きました

農業に込める思い

自営に挑む

人とのつながりを大切に

理想の農園を目指す

農業の魅力に触れて独立

農機具販売店などに勤めた後、知り合いに誘われてコメ農家で5年間働きました。毎日の草取りも苦にならずに続けられたので、自分は農業に向いているのではないかと思いました。一生懸命やっていると、周りの農家の皆さんが声を掛けてくれたり、協力してくれたり、人とのつながりができて「農家っていいな」と思うようになりました。コーチューブや本で独学するほか、アプリパークに相談する、ほかの農家の人に話を聞く、異業種の社長から経営を学ぶなど、多くの人とのつながりを作りながら、昨年独立しました。

反響がモチベーションに

栽培している農作物は、ミニトマト、ナス、ピーマン、カブ、ニンジンなどで、土台である土作りにも力を入れて育てています。ミニトマトが昨年の「身体に美

味しい農産物コンテスト」で優秀賞、今年の「野菜ソムリエサミット」で最高賞を取ったことは自信になりました。収穫した野菜は、主にスーパーマーケットに出荷しています。パイヤーから「志田さんの作ったナスやミニトマトが大量に欲しい」と言われたり、お客さんからインスタグラムで「美味しかった」とメッセージをもらったりすることがうれしいです。

畑を「さんぽ」してもらいたい

「さんぽ農園」という園名は、フラワーガーデンのような自由に歩ける農園にしたいという思いで付けました。将来は、農業体験ができ、訪れた人が自由に歩ける農園を目指したいです。2年目となる今年の目標は、しっかりと畑作りをして農作物を安定供給させることです。土作りからこだわった自慢の野菜を多くの人に食べてもらいたいです。

▲息子の温貴さんも収穫の手伝いをしています。

志田さんお薦めの野菜の食べ方

ミニトマトに塩少々を加え、煮詰めて作るトマトソースがお薦めです。野菜に塩とオリーブオイルをかけてグリルしてもおいしく食べられます。

消費して応援しよう

新潟市産の農産物はこんなところで買えます

JA新潟市「キラキラマーケット」
(いくとぴあ食花内)

時 10時～18時
※第2火曜、年末年始休業

場 中央区清五郎336
TEL 025-384-8487

新潟の地場産農産物直売所
「にいがた村」(アグリパーク内)

時 9時～18時
※水曜休業

場 南区東笠巻新田3044
TEL 025-362-5889

「野菜直売所」
(うららこすど内)

時 9時～17時半
※年末年始休業

場 秋葉区小須戸893-1
TEL 0250-38-5430

ニキロ

にいがた2km食花マルシェ

8区の特徴ある農産物や加工品が購入できます。

日 10月12(土)・13日(日)10時～16時

場 万代シティ十字路(中央区万代1)

問 食と花の推進課 ☎025-226-1794

▲過去の様子

農業サポーターを募集

「農業への理解を深めてほしい」「消費者と交流したい」という受け入れ農家の元へ行き、農作業を支援するボランティア「農業サポーター」を募集しています。受け入れ農家の情報や申し込み方法など、詳しくは新潟市ホームページに掲載しています。※市外在住の人も登録可。活動日時

は受け入れ農家と調整

問 食と花の推進課 ☎025-226-1864

※同サポーターの受け入れに関心のある農家も同課へ

スマートフォンのこちらから

▲農業体験農園では、野菜を育てた経験のない人の利用も歓迎しています。

高塚さんお薦めの柿の食べ方

凍らせた柿と牛乳をミキサーにかけるだけで、冷えたスムージーが出来上がります。柿の甘みがあるため、砂糖は不要です。

好きな地元で働きたい

秋葉区生まれ育ち、東京農業大学へ進学しました。地元が好きで、大学の民俗学の研究室では、にいつ夏まつりなどの伝統・文化が農業にどのようにつながっているかを研究しました。卒業後は東京で働きたいという思いと、地元で働きたいという思いの両方がありました。秋葉区に貢献できる人になりたい」と思い、昨年親元で就農しました。

気軽に農業の体験を

主な業務は農業体験農園での接客です。利用者に野菜を栽培する土地を提供して、助言などを行っています。野菜が病気になった時にすぐに適切な助言ができず、経験不足を感じることもありました。周りの農家の人に聞いたり、失敗を通じて知識を得たりして経験を積んできました。利用者から「高塚さん

親から子へつなぐ

愛着のある地元で

農園を守り発展させる

農園のほかに、まちづくりの会社で秋葉区への移住ツアーの企画なども行っています。農業と自然の良さを伝え、まずは秋葉区と関わってくださる人を増やしていきたいです。

新潟の人は地産地消の意識が高く、ありがたいです。これからも新潟の食べ物に誇りを持ち続けてもらえるように頑張りたいです。

秋葉区と農業の魅力伝えたい

農園のほかに、まちづくりの会社で秋葉区への移住ツアーの企画なども行っています。農業と自然の良さを伝え、まずは秋葉区と関わってくださる人を増やしていきたいです。

新潟の人は地産地消の意識が高く、ありがたいです。これからも新潟の食べ物に誇りを持ち続けてもらえるように頑張りたいです。